観点	単元の評価規準	場面やまとまりごとの評価規準　（文中の観点については、指導計画欄に記載） 十分満足できる状況とするキーワード	おおむね満足できる状況	努力を要する状況への方策	評価場面（○） 評価方法(・)
国語への関心・意欲・態度	○読み語り活動を通して、読むことを表現や自分の生活にてようとしている。	○集中して、楽しみながら、(聞いている時) ○「本の内容・読み手・聞き手」の話題を整理しながら、読み手となる目標をもって(話合いの時)	○読み聞かせを聞き、感想を発表したり、質問をしたりしている（また、それらをよく聞いている)。	○次の場面を想像したり、講師がどんな思いで作品を読んでいるのかを考えながら聞くように助言する。 ○発表･質問については､観察とワークシートの記述内容とを考え合わせて個別指導する。	○読み聞かせ外部講師との質疑応答の場面 ・観察、ビデオ録画考察
		○聞き手の状況を想定し、読み語りたい本との兼ね合いを考えながら ○図書館の利用など広い範囲から選択、決定しようとしている。	○読み語りをしたい相手（聞き手）を自分で決め、聞き手を意識して｢読み語り｣用の本を選択し、準備する。	○聞き手の想定について、特別な相手がいなければ保育園児を想定するよう助言する。 ○本の選択については、友人の設定理由などを紹介し、参考にするよう助言する。	・アンケート状況より ○上記アンケートの結果により指導者が設定した面接の場
		○自分一人の読みの時間を生かし、自分の読み深めたいところに時間をかけて読んでいる(同右)。	○自分一人の読みを大切にして読み込もうとしている（含　他者の読みを知りたい思いの増加)。	○活動１の内容を想起し、自分らしく読むことが基本であることを再確認する。その後、選んだ理由や本の印象深い部分は自分読みの基盤だということを押さえ、不安を解消できるよう支援する。	○一人読みの場面 ・観察、質問法
		○うなづきや相づちを打ちながら聞いている。 ○相違の理由を考えるために表現に戻り、文の前後を関連させながら	○友達に質問したり、友達の質問に対して自分の考えや思いを伝えようとしている。	○聞き手は多様な受け取りをすることを知らせ、だからこそ自分の思いを大切にした読みが重要であると伝え、活動の意欲化を図る。	○相互読みの場面 ・観察、メモ、ビデオ録画考察、　質問法
		○読み語り活動全体を振り返りながら ○内容の中核と表現課題とを関連させながら ○自信をもつことで発表に向け意欲を増している	○読みまとめ・課題設定・自己評価の活動を通して、読みを深めてきたことに自分なりの自信を感じとれている。	○具体的な表現を例に取り、自分の読み方の工夫や配慮が､聞き手を大切にした読みの深まり(変容）であることを知らせて、読み深めの自信を感じられるようにする。	○一人のまとめ読み場面 ・観察、プリント内容、質問法
		○聞き手の反応にも対処しながら ○コミュニケーションを図る努力をしながら	○聞き手を尊重して「読み語り」を行おうとしている。	○「相手を尊重して・積極的に」の意味で不足がある場合、「笑顔・ゆっくり・大きめの声」を中心に支援していく。	○読み語り時からその後の国語授業の場面 ・観察、質問法
読む能力	○作者の思いや表現の仕方、語句の効果的な使い方を味わいながら、自分の考えをもてるようになる。	○筆者の考え方にも触れながら ○自分のものの見方･考え方を広げながら	○読み聞かせを聞き、作品の主題や筆者の思いを自分なりに聞き取っている。（C-イ）	○印象深い場面を思い出すように助言し、その場面を確認し自分なりに聞いていたことを認める。	○聞く場面→外部講師との質疑応答の場面 ・観察、授業後の発話
		○筆者の意図や主な内容を、場面構成、登場人物の関係や性格などを関連させながら	○自分なりに筆者の意図を考え、主な内容を読み取れる。　（C-イ）	○【関】と同じ方法を取り、気付いた言葉や場面から主な内容を考えられるようにする。	○一人のまとめ読み場面 ・観察、質問法、プリント内容
		○友人の視点や想像を自分の読みに取り入れながら ○友人の語調や音読の工夫から気付いた読みの変容を大切にしながら	○【深め観点(内容･表現･語感)】にそって、自分なりに読みを広げたり深めようとしている。　（C-イ、ウ）	○内容の中心、好きな表現部分とその理由を一言で言い、その違いを説明し合うことで、読みの相違を読みの広がりとしてとらえられるようにする。	○相互読みの場面 ・観察、メモ、質問法
		○授業記録･友人･講師の助言を根拠にして ○読みの広がりと深まりを踏まえ、自分なりに読みの軽重を図ったり取捨選択をしながら ○自分で設定する表現課題と関連させて	○【まとめ観点①(内容の中核)】にそって読みの再構成し、自分の読みをまとめている。（C-イ、ウ、エ）	○本の選択→一人読み→相互読みの授業記録や自分の思いを振り返りながら、「今の自分にとって内容の中核は何か」を口頭で言い、読みの変容を確認しやすくしていく。	○一人のまとめ読み場面 ・観察、プリント内容、質問法
		○読み語り時には、理解の変容を意識しながらは無理なので、帰校後、ワークシートの記述内容をもとに個別に評価する。	○聞き手を尊重しながら、自分でまとめた読みを音読することで理解を深め、読み深めの成果を確かめることができる。（C-ウ）	○帰校後、ワークシートの記述内容をもとに個別に指導。	○読み語り時の場面 ・観察 プリント内容ビデオ録画考察
言語についての知識・理解・技能	○読み語り活動を通して、内容、語感、表現の特徴、文体など優れた表現を味わえるようになる。	○音声の工夫についても自分なりに気付くことができる。	○読み聞かせを聞き、語感の豊かさを感じた語句を指摘できる。　（言(1)-ア、ウ）	○印象に残っている言葉を想起し、なぜ記憶に残るのかを考えるよう助言する。そのことより、同じ言葉でも一人一人によって受け止め方が違うことに自ら気付けるようにする	○読み聞かせを聞く場面 ・観察、授業後の発話
		○語感を大切にしたい語句を、前後の言葉と兼ね合わせて考えながら	○文脈中での語感を具体的にとらえようとしている。　（言(1)-ア、ウ）	○指導者が具体的な語句を数種類の音読を示し、どの音読が自分にとって一番合っているかを決める。このことを手がかりに語感の違いに気付くようにしていく。	○一人読み場面 ・観察、質問法、プリント内容
		○聞きやすいように工夫して ○思いを伝える意欲をもって	○【深め観点(声量･語感･間･速度)】に留意して本を音読しようとしている。（言(1)-ア、ウ）	○聞きやすさの観点で振り返り、最も大切にしたい表現の仕方を具体的に考えられるようにする。	○相互読みの交流場面 ・観察、メモ、質問法
		○｢どこを、聞き手が～できるように、～していきたい｣の表現課題設定形式を利用しながら ○自分でまとめた内容の中核と関連させて、作品全体に一貫性をもって	○【まとめ観点②(表現課題)】に留意しながら自分で中心的な表現課題を設定できる。また、具体的に工夫しながら音読で表そうとしている。　（言(1)-ア、ウ）	○｢どこを、聞き手が～できるように、～していきたい｣の表現課題形式を利用し、個々に相談活動をしながら自分の言葉で記入できるようにする。	○一人のまとめ読み場面 ・観察、質問法、プリント内容